

次に、3番 上田議員の質問を許可いたします。

ご登壇を求めます。

3番 上田議員

上田議員／ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、3番 上田 雄一、31 回目の一般質問をさせていただきます。

きょうは最初に末藤議員さんが行われランナー 1 塁、牟田さんが送りバントを決められて、ワンナウト 2 塁。

最低でも 2 アウト 3 塁、あわよくばワンナウト 1、3 塁を狙って頑張っていきたいです。

最近つくづく感じるがあります。

この私がお世話になって、議会にお世話になって、すでに 7 年と半分以上が経過しており、その当時を振り返ってずっと考えていくと明らかに違うことが、この武雄市という知名度が、ものすごい進み方で知名度が上がっていると感じています。

私もこの仕事をさせていただいて、おかげさまで県内・県外、たくさんの議会関係者の人、また首長さん、またいろいろ政党関係の人、たくさんの知り合いができました。

そこで、最初に御挨拶をするだけでも、武雄市議会の上田ですと御挨拶するだけで、あら武雄からですかと。

多分、皆さんもたくさんこういう方がいらっしゃるのでは。

今議会でも、答弁等がでてきていますが、T ポイントレディースゴルフトーナメント。これは全国のトッププロが武雄に来る非常に喜ばしいことで、佐賀県はつだそうです。

先ほども先輩方と話していて、印象に残った言葉が、議会は夢を語る。

夢を語って、昂揚を起こす。

そして前進を生むという話をうかがって、なるほどと。

私も思いおこせば、武雄は、賑わいの街武雄をつくるためにこの場にいると思っています。

そういう意味からでも、これ逆のほうの答弁になりますが、図書館についての公開討論会を実施するという話を、実施したいという答弁があがっていましたが。

すでに図書館は、たくさんの皆さんのおかげで予想をはるかにまわる前進を遂げています。

それをこの場でもう討論会をする必要もなかるうもんというのが、私の率直な感想です。

今実施しても、すでに決まったことです。

すでに実施して、もう前に進んでいることです。

今回、再来月になりますけど、自由民主党の兵庫県連成年局の皆さんが、武雄にというか、佐賀県に来られます。

1 泊 2 日ですが、初日は玄海原発。

2 日目は武雄市、中身は、新武雄病院と図書館を視察したい。

わざわざ兵庫県から 20 人もお越しになってそこを見たいと。

そういうのが、武雄の知名度を十分にあげていることじゃないかなと思います。

今回、質問に入ってまいりますが、武雄にとってうれしいニュースが、先ほどの女子プロゴルフでもそうですけど、今回紹介したいのがこれです。

有田工業初の甲子園に導いてくれた古川侑利投手。

彼が楽天にドラフト4位で指名され、入団が決まったと。

これは非常に喜ばしいことだと思います。

本当にうちドラフト会議を子どもたちがビデオで撮ってまで見ていた。

指名されたよといって、言ってくれた。

実質今回4位で指名をされたということで。

私もいろいろ、野球好きなもんですから調べたら、佐賀県から3人目なんですよ。

古里さんが阪神で3位。

福地さんが広島で4位。

北方町からですよ。

今回古川さんが楽天の4位と。

4位って、かなりよかとですよ。

というのは、あの大選手イチローもドラフト4位ですよ。

阪神の金本さんもドラフト4位。

元楽天エースで今マリナーズにいかれてる岩隈投手もドラフト4位。

ドラフト4位は大成する選手がたくさんいるということで、古川選手もぜひそういう選手になっていただきたいなど。

そこで一つ質問ですが、今回古川選手が楽天に行くことになり、武雄市民総ぐるみで応援をしていきたいと思います。

これはちょっと生々しい話にもなるかもわからんとですけど、ふるさと納税等も考えてもらって、武雄にぜひ貢献をしてもらえ…

今回幸いなことに、本土から入団をするわけで、まだこっちと仙台を行ったり来たりする機会が多いんじゃないかと思うので、その間に、ぜひふるさと納税の説明もして、武雄市民総出で応援したいのですが、まずこれを1点質問させていただきます。

議長／樋渡市長

樋渡市長／まず公開討論会の件ですが、これは結構インパクトがあったようで、私のところにもいろいろな連絡がありました。

賛否両論でした。

やるべきというのと、もうせんでもよかという2つがありました。

私はやっぱりやったほうがいいと思います。

というのは、もううちも疲弊している。

こんな分厚い公開質問状を、あれほとんど嫌がらせです。本当に。

であるとするならば、もうみんなが見ているところで、賛成・反省、5・5でもいいです。
3・3でもいいです。

そこで万機公論に決すべし、もうそこで言いたいこと言ってもらって、私たちも言いたい
こと言います。

それでもし、われわれが誤解があれば、そこを正せばいいだけの話で、会って話すのが一
番。

ただしこれは密室ではよくないと思いますので、それは公開ですということ。

むしろこれ、イノウエさんのためでもあると思うんですよ。

どんどんどんどん公開質問状が紙爆弾のように来るよりは、それよりはみんなが見ている
前で自分の言いたいことを言ってもらって、われわれも言って。

しかもそれを前向きになれば、それはそれでいいと思いますので。

また来るんですよ、公開質問状が。

爆撃機みたいですよ。

本当に笑い事抜きにして。

本当にそれが武雄市にとって前向きになるか。

比較の問題で、おそらくね。

何もない場合は、一番いいのですが。

爆撃機よりも公開討論会がいいと思います。

それは比較の問題だと思っています。

それと、このふるさと納税、うち担当がいます。

古川建設課の参事、彼をきょう担当に任命します。

議長／3番 上田議員

上田議員／ぜひ、本当武雄市総ぐるみになって古川選手を応援していきたいと思っていま
す。

続いて本題に入りますが。

今回、教育について。

まちづくりについて。福祉について。

以上三項目を通告しています。

一部、これまでと重複する部分があると思いますが、ご容赦ください。

早速、武雄中学校の改修計画についていきたいと思いますが。

これは武雄中学校の校門、正門ですね、からとった絵になります。

これが模型です。

航空写真で、これちょっと以前撮っているので、今と若干違うかもしれません。

今回、校舎。

これは管理棟になります。

管理棟を、ちょっと色をぬってみました。

これがちょうど2つにわけると、重箱堤というか。

私はこの重箱堤はなんとかせんともったいないなというのがあって、いろいろここでも質問をさせていただいていますが。

これが今、現状の練習風景です、テニス部の。

それが現在の計画からいくとテニスコートが3面の予定です。

テニス部は、さっきこれ出しましたが男女あわせて90名ほどおります。

ものすごい人数なんです。

それで私今回、前回も提案しましたが、ここの重箱堤を埋めて、テニスコートをここまで持ってくれば、ちょっとグレーっぽく半透明になっていますが、ここ1つ分は駐車場にしていいいかと。

校舎のつらまで駐車場にできると。

要は今の計画では、ほぼ倍近くなるのではないかと。

これが重箱堤の写真になりますが。

これも、私の6月議会でもここで一般質問させていただいて、そのときの答弁を整理しますと、防火水槽の位置づけがあるのが1つ。

そして区の持ち物なのでこっちから言うというのは、基本的にはないという答弁をいただきました。

それから私もずっといろいろ半年ほど考えて、いろいろ相談しながらやっていましたが、防火水槽としての位置づけがあるということは、消火栓整備もしくは重箱の規模を縮小するなど、水利の確保をすれば解決すると思うんです。

ここ、簡単に埋め立てたと想定して色を塗ってみましたが。

例えば防火水槽ということであれば、これくらいで役は果たせるだろうと。

あるいはこれを全部埋めて、例えばこういう所に消火栓を設置するなどで、十分クリアすると。

だからこれは大したあれじゃないかなと思うんです。

一番問題なのは、重要なのは、こっちです。

区の持ち物であるということ。

だからこっちからいろいろ言うことはないということあるわけですが、ここで御報告というか、あれですが。

私は一般質問を見よって区長さんたちといろいろ話して、区の皆さんともいろいろ話しました。

そいぎ、わいにいいよった、わかったって。

そいぎ、学校にそがんして重箱は役にたたないばい、うちはよかばいといったわけです。

はっきりいって、地権者である小楠区の理解をいただいたわけで、であれば、6月議会で

懸案になったことを2つともクリアできるんじゃないかと、この辺について答弁をお願いしたいと思います。

議長／樋渡市長

樋渡市長／先日、地元の区長さんが直々に私の所にお越しいただきました。
その中で小楠区からこの土地、重箱堤の土地そのものについて提供の申し出があったので、これについては、これから協議をはじめたいと思っています。
この協議が整えば、ぜひ学校用地として。
これ、全部がテニスコートになるかは別として、先ほど上田議員が仰ったように、防火水槽の役割もあるかもしれませんが、いずれにしてもこれ学校用地を中心として使ってまいりたいと伺っています。協議にさっそく取りかかりたいと思います。

議長／3番 上田議員。

上田議員／はい、ありがとうございます。
ぜひですね。ひろかですもんね。
ありがとうございます。
本当、たすかります。
それでは、次にICTに入ります。
ICTも、これまでかなりかぶっています。
かぶっていますが、私が聞き損なっとうかわからん部分もあるので、一回重ねてになります。
質問をしていきます。
今春に小学校にタブレットを配付して、その翌年の春に中学校に配布ということで。
これは、その前の新聞記事にあったことで目的はこのようにありました。
私も保護者の一人として、たくさんの声を聞くわけです。
これは武内小学校の参観授業に行ったときの写真ですが。
みんな一生懸命していました。
何点かの疑問点を確認させていただきます。
まず、反転授業。
これを取り入れるきっかけは、なんなのかと。
どこか先進事例があったのか、まず最初に聞いてみたいです。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これ、そもそも自分の小学校時代を振り返ったときに僕は不登校だった。

だから学校に行くのが苦痛で。

多分それが原体験にあって、しかも私は今この立場で学校を回っています。

小学校も中学校も時間がある限り回れば回るほど、子どもたちの本音が引き出せる。

授業は面白いかと聞いたら面白くないと。

面白いという子もいると思います。

なんで、もう少しきめの細かいことができないかということと、恐らく私が多分反発して、今の子どもたちがおもしろくと言っているのは、中身より一斉授業がしんどいと思う。

だからもう少しマイペースで、しかもここにいる方は、みんな1回聞けばわかると思う。

議員さんやうちの職員さんとか、上田議員さんとかもそうだと思うけど。

実際回ってみると、わかってるふりをするのと、わかったとは違うじゃないですか。

だから2回や3回聞いてわかる子もいっぱいいると思う。

そうなったときに、どうにかならないかと思ったとき、そこに座っている代田さんが私の所にやってきて、これNEWS 23でも実際放映されましたが、樋渡市長、反転授業という取り組みがあります、と。

何か聞いたら、予習中心で家でタブレットを15分くらいみて、自信を持って授業に出て、授業では実際子ども同士が教え合って、学びあって高め合うことなんです、と聞いて。

得体の知れない人だなと思ったんですが。

はい、得体の知れない人でした。

これが教育を変えていくんです、というのをすごく、きょうの答弁で言われているみたい

に切々とおっしゃったので、これはぜひやってみてもいいのかなと。

しかも、武内小学校と山内東小が3年以上前からタブレットを配付して一定の実績をあげているので、これはなじむのかなということがありました。

ですので、私からは最後にしますが、きっかけは私自身は代田さんから聞いたのがきっかけ。

どこかに先進事例があるのかについては、私自身ほか知りませんので、これについては代田さんのお話しになると思います。

議長／代田教育監

代田教育監／反転授業を取り入れるきっかけと、その先進事例の話です。

そもそも予習を中心に授業をするのは、考え方自体は最近の話ではなくずっと前から、予習をするのはだいたいいいよねという話はあったと思います。

ところが、予習が効果的になるというのが、アメリカで非常に爆発的に流行ったのが、そのきっかけをつくったのが、サイマル・カーンという人です。

この人が家庭教師をやっていた動画をユーチューブであげた。

これでやるとよくわかるよというものを、ユーチューブだから世界中の人が見て、これを

見るとより授業がわかりやすい、ということが爆発的にインターネットの普及と、さらにタブレット端末で見れるというＩＣＴの技術が進んだことによって、反転授業、単なる予習ではなく、動画を見て自分なりに主体的に学ぶと授業がよりおもしろくなるというようなことが、2000年代、特に2000年、後半から実績が出始めたというふうに思っています。これは、私の経験ですが、杉並区の中学校でやったときに、反転授業まではいかなかったんですが、話し合いの授業、教え合いの授業をやると、子どもたちがどんどん主体的になってくる。学びに対して主体的に取り組むようになった。これは実感値がありましたので、一方的な授業時間をなるべく少なくして、子どもたちが教え合う、そういう時間が必要なんじゃないかというふうに思っています。

前回の質問のところでも話しましたが、人間の子どもの記憶というのは、一方的に教えられる記憶力というより、他人に教えた経験、さらにはグループで討議するという、こういったチームでやる、こういったことが知識の定着につながるということも、正式な研究所で出ている報告なので、こういった理論に基づきながら、技術を使って反転学習するのというのが効果的ではないかと考えています。以上です。

議長／3番 上田議員

上田議員／サイマル・カーンですね。

ユーチューブに載せてあるんだったら、私たちも見れるわけですから、そこでわたしもまた、見てみたいと思います。

続いてですね、これも保護者の皆さんの興味の高いところなんですけれども、今回、反転授業を行う上で、タブレット端末を使うわけですけど、授業時間中に大体どの程度使うのか。

わたしはこの授業参観を見て行きましたんで、こういう感じなのかな、とわかっておるんですけど、ひとつ、1時間の授業が50分なら50分。何分か、ちょっとはっきりした時間わかりませんが、50分の中でどの程度の時間をタブレットを使って授業をするのか。

また、1週間の授業、月～金の5日間、土曜日もあるのかな。その中で、どの程度使用頻度があるのか、ここをもうちょっとお伺いしたいと思います。

議長／代田教育監。

代田教育監／上田議員も見ていただくとわかるんですが、アイパッドを使った授業だと、子どもたちがずっとタブレット端末に向かっているか。

このような誤解がありがちですが、そういうことは、一切ありません。

タブレット端末を有効に利用するということで、特に使い勝手というか、タブレット端末が有効的に使われるのはみんなの意見を共有するときです。

要は、自分が発言するとき、タブレット端末で自分の意見を書く。そうすると全員の意見を共有できる。こういうときは、従来の、声の大きい人とか、元気のいい人だけじゃなくて、意見が共有できるという意味で使います。それが大体5分間くらいです。

最後、授業のまとめとして、どれくらいわかったかとか、テスト問題のとき、5分くらい使います。ですので、授業の中で使う時間は10分、長くても15分くらいの感覚だというふうに御理解いただければなと。

これが1日5時間ある中でどのくらいかというふうに、考えると、大体今の現状だと、1科目か2科目で使われている頻度で、スタート時点としては、1日3回の授業、多くても2、3回の授業で使われるイメージかなと思っています。

例えば、理科と算数とか。国語のまとめ、そんな形になるかなというふうに思います。

併せて、反転授業をどのくらいやるのか。今、市内の先生方と予習の動画を作っていますが、教科としては、算数と理科。しかも、それ全部予習中心の反転学習やるかといったら、そうじゃなくて、大体コマ数の4分の1か5分の1のコマ数になりますので、この反転授業は、おおざっぱにいうと、大体5分の1くらいですので、1週間持ち帰って、2、3回、家庭で宿題があるというようなイメージ。

宿題になるのは2、3回くらい。授業としては、2、3時間。初年度スタートとしては現実的なところからと考えています。

以上です。

議長／3番 上田議員

上田議員／このまま、すいません。

反転授業を見ていると、私が個人的に気になったのが、準備として一番大変なのはここじゃないかな、と思うんですよ、家庭の最初の10～15分。ここの準備が一番大変やなとかかなと思うわけですね。

私が、学校の現場でよくスマートボードを使われているのを見るときにちょくちょくおきるのが、画面がフリーズしたりとか。そういうことが、ちょこちょこ見受けられて。スマートフォンが新しいとか、ソフトの容量なのかどうか、そのへんはわからないんですが、そこらへんで先生たちもパニックになることも。

今、学校のICT支援がたくさんされていますが、1校に1人、体制されておらんわけです。そこは、これからの検討課題として考えるべきだと勝手に思っているのですが、そこらへんはどうですかね、対応としては。

議長／古賀教育部長

古賀教育部長／ICTの支援につきましては、25年度で9名配置しています。

次年度以降、小学校では、タブレットが全員に配付ということもあり、今予算編成の時期ですので、話をしていきたいと思います。

議長／3 番 上田議員

上田議員／本当、ぜひそれをお願いします。

現場のほうが、ウエイトが大きくなっていくのもあれですので。

画面を変えます。

それでは、これも答弁で再三でていますが、機種やアプリケーションについて、今後どのようにするのか、これもお聞かせ願いたいと思います。

議長／代田教育監

代田教育監／機種や、アプリの選定については、タブレット端末選定協議会を有識者、学校関係者、保護者など8名で構成し、そこに対してプロポーザルを受け、そこで決定する形になります。

議長／3 番 上田議員

上田議員／プロポーサルで決めていくということですね。わかりました。

それでは、それは、スケジュール的にはどのような感じで考えられているのでしょうか。

12 月でしょ。来年の4月まで、残り3カ月しかない中で、スケジュール的に、最終的に、機種、アプリケーションがこうなりますよ、と保護者、子どもたち、学校現場に周知できるスケジュールになっているのか、そこまでお答え願えますか？

議長／代田教育監

代田教育監／もちろん、議会で予算承認を受けたあかつきにはになりますが、1月下旬には、決定を出し、そこでアプリなどを発表したいと思っています。
以上です。

議長／3 番 上田議員

上田議員／わかりました。1月下旬ですね。

それでは、ここも、今議会で出るかと思ったんですが、でてないんじゃないか。

壊したり紛失したりした場合の対応というのを気になられている保護者さんがけっこうい

るんですね。どこさんだったか、クエスチョンが。紛失もあるし、そういった形で、おとされたり、タブレットですから、どういうのがあるか。あとは、落として割ったり、そういうのがいろいろあると思います。

そこらへんの対応は検討委員会ですと先の議会では、お話だったかと思いますが、ここらへんの制度設計はどのようなスケジュールになっていますか。

議長／代田教育監

代田教育監／先ほど、私の発言で、ちょっと訂正させていただきたいと思います。

タブレット端末選定協議会と申しましたが、タブレット端末選定委員会ということで、訂正お詫び致します。

今の議員の質問ですが、ごもっとだと思えます。

持ち帰ったときに、特に小学生でしたら、壊したり、紛失したりというケースには、教育委員会で進めていきたいと考えていますが、壊さないようなところで、取り組みとしては、まず1つ、タブレット端末に、衝撃保護カバーをしっかりと装着すると。さらに、受ける衝撃を吸収できるフィルムもやり、壊れにくいものを購入したい。

もう1つは、学校教育の中で、個人の持ち物じゃなくて、公共の持ち物ということで、雑に扱わない指導を徹底していきます。

それでも、壊れてしまった状況に関しては、すべて無償で市のほうで対応したいと考えており、保護者の壊したときに負担があるという形は取らない方向で考えています。

紛失したりとかありますが、さきほど議員が言った、脅されて取られたとかいうのは、紛失とは違うと思いますので、盗難とかで火災とか、そういう明確な理由で紛失した場合については、無償でもう一度提供したいと思いますが、うっかり紛失とか、そういう問題については、保護者の負担も考えていけない部分でもあるかと思っていますが、今後、そこらへんについては、詳細を詰めていきたいと考えています。

以上です。

議長／3番 上田議員

上田議員／これまでの答弁の中で、紛失…さっき市長の答弁やったですかね。

これを持って、帰って、登下校の下校ルートから外れているというのまでわかるのであれば、紛失という可能性がなかわけですかね。そこらへんどうですか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／ごめんなさい。詳細がよくわからない部分があるので、申し訳ないんで

すが。

電源を切っても、多分居場所って、わかるんですね。GPSで。なのでそこは多分大丈夫だと思うんですね。

ですので、一般的な紛失にはならないと思います。ですので、そこまで技術が進んでいるので、そうはならない。

併せて申しますが、これをゲーム機みたいに使うのじゃないかと、きょうも一般質問が終わった後にも、言われた保護者さんがいて。これは、家に帰ったときには、インターネットには繋がらない仕様にします。

ソフトで、夜9時になったら、開けないというのものもあるんですね。シャットダウンという言い方しますけども。そういうものもありますので、100%、教育目的に使ってもらえるように、これも併せて、制度設計がなされると思っています。

議長／3番 上田議員

上田議員／わかりました。それでは、反転授業の向かうべき方向…おかしかですかね。これも保護者の皆さんが危惧されている部分で、どういうふうに思っているのと、簡単に図をつくってみました。

例えば、A君、B君、Cさんが、おりますと。普段、Aさんは、70点ぐらい取りなさる、Bさんは、50点取りなさる。Cさんは30点ぐらい取ってる。というところですね、これを反転授業、ICT事業を活用することで、理想は、みんなが100点を取れるように頑張ろうというのが理想だと思うんですけど、中身はですね、予習重視の授業というようにところも…予習のウエイトが大きくなるということですね、Aさん、Bさん、Cさんの、例えば、Aさんは70点取りようけん、結構、予習も一生懸命するやろうと、Bさんも、せんばらんことない、そこそこするだろうと。Cさんは、もともと、しとりゃーもんいっちょんしとらんごとやきんね、なかなか、あれじゃなかということで、結局、Aさんとかは、平均上がる、Bさんもそういうので、取り組んだことで上がる、Cさんは下がるというのは考えにくくても、考え方としてはですね、結局ここでも、予習をしていかないとついていききらんとなって、こっちが下がっていくんじゃないかなという心配されている方もいらっしゃると思います。

もしくは、真逆の考えで、ここまで、70点は、変わらないけどもCさんはこがん宿題といっちょんしんさんやったとばってんICTの教育になって、アイパッドを使って予習をするとなるに、そがんゲーム感覚ででくつとと、ものすごく興味があつて、この子がいきなり90点をとったりとかあるんじゃないかと。

いろんな見方があるわけですが、ここらへんは教育委員会として、どういう方向を向いているのか、そこらへんを答弁をお願いしたいと思います。

議長／代田教育監

代田教育監／公教育ですので、公教育の目的は、全ての子どもたちの学力の保障と向上、大きな目的ですので、もちろん議員が言ったように、すべての子どもたちが 100 点とれるように、これが大きな目標だと思います。

全ての子どもたちの学力保障・向上のために、一つ有効だということで、アメリカやオーストラリアなどで先進的に進んでいるのが反転授業の手法なのですが、効果としては、今の C さんの 30 点の人の、伸びが大きいということが報告されています。

アメリカなんでも、これが市民権を得ているのは、落第率がすごく減っているということがでているので、つまり、端的に答えると、より反転授業が効果が出るのは、A、B の人達が上がっていくというところは、海外の事例ではあります。

A は伸びないのかということですが、ピラミッドで見せたとおり、A の子も教える側にまわるので、より知識の定着が高まるというような効果は見られると思います。

以上です。

議長／3 番 上田議員

上田議員／結局は、こっちを目指しているということですよ。やっぱりね。

上げ幅が、C さんのほうが、大きくなるということですから。わかりました。

それでは、次にいきまして。これですね。反転教育、反転授業、言葉だけが、先行しているくらいがあるのを感じていますが。

要は、学校現場、学校の先生方も、あまりまだぴんと聞いていないという話も聞こえるわけですし、保護者にいたっては、当然、まだ全然、新聞報道等の情報だと思います。

これについて、すべての各学校で、説明会をすべきではと、通告をするときには、これまであげていますが、これまでの答弁で一覧表まで出てきているわけですが、改めてスケジュール的なものなど、御披露いただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

議長／代田教育監

代田教育監／上田議員おっしゃるように、これから一番私たちや教育委員会がしっかりやらないといけないことは、教育委員会からの、押しつけの反転授業じゃなくて、先生たちが自ら主体的に取り組む教育活動だと思います。

そのためにも、保護者への理解というのも進めていかないといけないと思います。

これは前回、ごらんいただいた保護者の説明会。

すでに昨日、橘小学校のほうで、行いましたが、大勢の保護者の皆さんが来ていただいて、質問もありました。

一つ一つ、こういうのを丁寧にこたえたいと思います。

一方、先生方はどうしているかというと、10 月中に校長会のほうで説明会を行い、この ICT スキルアップセミナー。

これは武雄の先生方が、自主的に月 1 回、18 時半から集まって、夜勉強するという前向きな議会での、ご説明の機会があって、ここでも各学校へ戻ってやってくださいということ、はじめています。

実際に予習のコンテンツ、動画のコンテンツをつくるのは、先月は武内小学校だけでしたが、すでに全小学校にまわって、小学校でつくっていきこうと、協力体制を仰ぎながら 4 月中にも定期的にやっていきたいと思っています。

議長／3 番 上田議員

上田議員／本当に、すごい教育改革ですので、現場の皆さんにも成功するためには現場と一緒にやっていかんといけん、そこら辺の周知をお願いします。

次は土曜日開校について。

これは以前からやっているところです。

土曜日等の開校。

自治体はいろいろアンケートをとられた中で、最終的には年間 10 日程度、やられています。

これも前回、先の議会で質問しましたが、保護者の声をどう認識して来年度どう取り組んでいくか。

私の個人的な見解は、国ないし県で横並びを実現すべきじゃないかと、話をしたところ、教育長では、検討委員会を開催すると。

夏休みあけてすぐだったので、これから検討委員会をして、早いうちに情報をおろしていこうと。

来年度の方針等などが出ているのかどうか、そこらへんをお聞きます。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／土曜日等の開校については、夏休みを含めて、これまで申しましたように、各学校 10 回程度の開校をしています。

これが 1、2 月含めてのものでして、その間、来年度のことを考えて、一斉の方がよいのか。

あるいは今年度やっているような学校独自の日を設定したほうがいいのかという、そういう話を重ねて、情報を集めていますが、現在のところは、今回程度の、10 回程度の土曜日等の開校を指定せずにやったほうが、やりやすいと。

それが先般の質問にあったとおり、各学校の特色ある取り組みにつながるという現実もあって今の時点ではそのように考えています。

またちょうど、きょうの佐賀新聞にも土曜日授業が取り上げていましたが、新たに文科省が改正して出している通知についても、各市町の教委で広げるという大枠の方向が。

地域によって事情が違う状況では、そういうことになるのかと。

議長／3番 上田議員

上田議員／市内で独自でやっていく、今年度と同じようにと。

私もそう思うんです。

あくまでも横並びなら国もしくは県でと。

これは全部がそれにむかっていくならいいですが、武雄市単独の授業でということで、うちの子どもが通う小学校では、御船が丘小学校と本来なら武雄中学校と連携せんといかんと思うが、社会活動等が同じ町内なので武雄小学校との連携をする。

それでも調整して、10日程度のうち一緒になるのは7日しかできず、3日間は独自ということ。

同じ町内でも完全に無理なところで、市で横並びとなると、おかしくならないかというのが、私の危惧するところでして、来年度は今と同じようなやり方をやる方向になるっっちゃうことですね。

わかりました。

それでは、この学期制のところですが。

今回平成16年度から武雄市内は3学期制から2学期制になっています。

25年度から今年度から土曜日等開校が10日程度入ってきている。

今現在も県内で2学期制を実施しているのは、嬉野市と武雄市でしたかね。

そこらへんで、土曜日開校等の開始、授業時数の確保は学力向上でいっていると。

しまいにはこれが、武雄市では反転授業まで取り入れると。

学力向上、授業時数などを鑑みると、もうそろそろ10年経つので3学期制を考えるべきだと思いますが、そこらへんはいかがですか？

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／3点ほど、申します。

1つは、土曜日等の開校につきましては、今回しめしてある文科省の例としては、学校がきちっと定めてやるとの回答。

それから、うちで中学校の3年生を対象にする、希望者を集めての土曜日開校。

あるいは全く学校を別にしてNPO等の協力を得てする授業などをしめています。

登校となると、授業時数としてはなかなかカウントしにくい。

土曜日等の開校がどういう形で、今年みたいな10日くらいのかかなりの授業時数をカウントできると思うのでこれは2学期制でなくても十分できると今は判断しています。

仮に3学期制に戻るとしても、今年が1月、2月に土曜日開校があるので集計して、26年度、変えるにしても27年度かなと。

それまでにしっかりと、今年度の反省をもとに評価をしまして。

反転授業の分については、授業時数とは直接はかかわらないかなという判断をします。

議長／3番 上田議員

上田議員／わかりました。

それでは、まちづくりのほうに入りたいと思います。

これはこの議会の場でも取り上げて参りましたが、楼門が新しくなってようやく完成しておるようです。

これも非常に武雄にとっては非常にうれしいことで、15日今度の日曜日の夕方6時から、ライトアップのイベントが行われると。

夕方6時でしたね。

行われるので、これもぜひ皆さんに足を運んでいただきたいと。

本題に入りますが武雄市にとって、今回また朗報がこの2カ月、この9月議会が終わってあとに2つありました。

皆さんご存知の10月3日にコスモス薬品、12月3日九州西濃運輸さんが武雄市への進出を決定された。

議会でも再三、企業誘致はどうなっているだという話を、再三再四やってきているわけで、今回もこの2社の進出はうれしい。

ここらへんは、しょっちゅう、どうなるか？と聞かれていたので、嬉しい話題が入ってきたので、そこら辺は状況的にどうなるのか、お聞きします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これは、あそこにいる人のおかげですよ。

北川理事とチダ。

この相性が良いのか悪いのかわからないコンビが組んで、スタッフとやっているって。

基本的に、うちはエースを送り込むんです。

みんなエースですが、特にエースを。

例えば、マツオケンイチ君とかの話しが、いまだに聞くんですね。

だから、そういうふうなチーム北川。

人相はそんなに良くないですよ。

あそこまでいってくれたら、来ますよって。

それで今、イケダというのがいますが、彼の名前をあちこちで聞くんですよ。

あんなに熱心な公務員は、自分のところにもたくさん企業誘致がくると。

しかし、イケダ君ほど熱心な人間は今まで私は見たことがないという人と、この前たまたま、羽田空港で。

「武雄の市長さんですか？」といわれて、そうですと。

イケダ君の上司ですよって。

「どのイケダですか」となりましたが、その話が出るんです。

私も関西大学の誘致にかかったことがあります。

そのときもいわれた。

人なんですよ、こういうことが立て続けに、こんな景気の悪い中で、武雄市だけが結びついているのは、うちの職員力の賜物(たまもの)だと思います。

それと上田議員さんがおっしゃったように、知名度です。

企業の経営者の話をきくと、3つくらい考えていて、最終的にどこにしようかといったときに、やっぱり私が何人かから聞いたのは、知名度だっていうことと、もう1ついわれたのは、病院です。

それが近くにあるのは、安心安全の要だし、調べてみると武雄市は交通の様子もいいと。調べないと、様子もへったくれもないじゃないですか。

そういうことも非常に良い循環になってきているので、そういう結果できのう発表した、CCCのTポイントレディースにもつながっていると思いますので、この勢いを持続させていきたいと考えています。

今後の予定があるかといったら、今いくつか調整をしていますので、決まり次第、報告ができればなと思っています。

議長／3番 上田議員

上田議員／本当、嬉しいかぎりです。

企業誘致が実現するというのは。

今まで、これも先の議会で使った資料をそのまま活用しているんですが、平成23年、10月に分譲開始して約2年。

これまで、分譲済み面積が0。

残り18.4、立地企業が0だったところが、それこそ前回の議会で新産業集積エリアのなんのかんのや、新産業の縛りにとらわれようか、という話もしました。

企業誘致も、物流とかそこらへんまで視野をひろげんといかんとやなかですかと。

私もなんもしらんでいいよったのが、3カ月前ですよ。

今回、3ヘクタール、立地企業数が1という数字が入ってきて。

すいません、ここが15.4になるわけです。

若木の工業団地については、先ほど牟田議員さんから、話があったように完売と。

ここに九州西濃運輸さんが入ってきて、若木の工業団地は完売ということです。

今回この18.4に、3ヘクタールのコスモス薬品さんが入っていただいた。

本議会に出ていますが、とりつけ道路として、せんばいかんはずです。

ここから出入りできないからです。

これ、勝手に私が入れているだけです。誤解されないように。

となるとここに約2ヘクタール。

ここが、約12ヘクタールくらいはあるわけです。

今回このコスモス薬品さんがきたことにより企業誘致の呼び水として、今後の展望も含めて答弁をお願いいたします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／副市長からいうなといわれているので、いいませんが、相手のある話です。

1つ大きなことも調整しています。

決まり次第、議会ならびに市民の皆さんに公表したい。

これもポイントとなるのは、やっぱり知名度です。

その方がおっしゃっているのも、病院・図書館。

やはり、自分たちも知られた所に行きたいって。

もちろん、ここも交通の要所でもあるので。

きまったときに、前の北方の町長さんの松本町長や黒岩幸生議員さんがいっている34号線のバイパス、あそこのドライブイン…。

あそこの部分をちゃんとやらないと、結局こられてもがっかりされるので、併せてそういう社会的インフラの整備を進める必要があるだろうと思っています。

決まり次第、またご報告ができると思っています。

議長／3番 上田議員

上田議員／わかりました。

それでは続いて、新幹線について入りたいと思います。

新鳥栖から武雄温泉間が現在フリーゲージということで、認可がおりていて、この議会でも再三、ルートはどうあれ、フル規格をぜひしていくべきだと、常時申し上げてきています。

そんななかで、これは嬉野市議会の意見書になりますけど、県内各議会でもいろんな動きがあります。

嬉野に続いて、鳥栖市、神崎市、多久市、上峰町など。

これまで県に対して、意見書を出されています。

武雄市でも同様の動きが必要ということで、9月議会では新幹線とまちづくり特別委員会の皆さんで原案作成をして、西九州フル規格化の協議を求める意見書が9月議会で可決、成立して交付されたわけです。

この柱が、1つめが、字が小さいので大きくしますが、財政負担の見直し。

建設費の財源は地元の自治体が3分の1負担するものとなっているが、新幹線事業は全額国庫負担等での整備を行うこと。

2つ目が博多～長崎間の全線フル規格化への実現。

現在予定されているフリーゲージでなく、在来線走行時のふみきりの安全面や不安や、冠水等の自然災害による影響をふまえ、全線フル規格化を強く要望するということ、ということで武雄市議会も県のほうに意見書を提出したところです。

これは新幹線活用プロジェクトの公開の場です。

その、新幹線活用プロジェクトも実は官民一体の団体として、フル規格を求める要望活動を実施されました。

ここは私ですが、山口良広議員さん、末籾さん、小柳さんと、議長さんいらっしゃいます。イナズミさんもいらっしゃいます。

そうということで、これはオオクボ副会長ですかね。

県の皆さんに要望活動されているところです。

わたしも同席して、たまには私もうつらんばと思って、ここに。

それで、これが沿線5市の首長・議長による、これも要望活動ですね。

これも要望で、こちらもいろいろな話しも出ております。

今回、武雄市議会としても、上りのほうを向いて要望活動していますが、下り方面にもいろいろ事業をせんと、こっちもまた、沿線5市という強力なタッグは組んでいかんといかんわけで、そこら辺のことについてもいろいろ、考えていかんといかんと思いますが。

市長が考える、フル規格化へ向けた次の一手というか、その考えがあるのかどうか、ぜひ、お聞かせ願いたいです。

議長／樋渡市長

樋渡市長／これ今ですね、僕にいうないうなの大ラッシュ。

フル企画って言うなって。

本当ね、こんなに圧力かけられるのかなというぐらいに、フルを推進する首長さんや議長さんには、ものすごい圧力がかかっているけど、僕は、圧力関係ないので。

圧力があればあるほど、違うと言います。

やっぱり、今のフリーゲージのままだと、絶対に後悔します。

それよりも、数年伸びてもフル規格にしたほうが、20、30年たったときに、実際にそれを使う子どもたちが大人になって使うと、あのときの判断良かったよねと。

今ね、妥協して、フリーゲージとなるとね、あのときの大人は、市長とかね、議会とかね、なんば考えよったとやと。

僕はそれはさげたい。

なので、言っておきます、フル規格と。

県の考えもわからんでもないんですよ。

ものすごい莫大な金額が県にのしかかってくるって。

県にのしかかるというのは、県というのは県民ですから。

武雄市民もそうですから、私どもの負担になるということで、県の考えはわかるので、だから、採算申し上げているとおり、システムそのものを変えようよということを、ぜひ言っていきたいと思っています。

武雄市がいつでも、今はインパクトありますけど、それ以上に2つ考えています。

まず、沿線5市のネットワーク会議を早めに関こうと思っています。

そこで、フル規格というのが、決まらないにしてもね、フル規格が大事だというようなシンポジウムをぜひ開いて、5市で一体になって盛り上げていくというね。

これが、1つ。

第2点は、先ほど上田議員からもご紹介があったように、***町さんは、フル規格にしてくれと、おっしゃっているので、沿線並びに、そうおっしゃっているところを巻き込んで、新幹線とは直接関係ないところも巻き込んで、こういう連携しながら、フル規格の気運を高めていきたいと思っています。

時期的に言っても、あと2年が、もう勝負なんですよ。

これを逃すと、フリーゲージそのままになってしまうので。

環境アセスメント調査が、今、25年、27年にかけて、実施中でありますので、2年で、***になってしまうので、これが始まる前に、手を打つ必要があるだろうというふうに思っております。

ですので、今度、私ども、4月6日、市長選・市議選じゃないですか。

議会も、議員さんも、思いっきり言ってほしいと思います

私も思いっきり言おうと思っていますので。

政治・住民の意志として。

それと、この前…長くなって恐縮ですが、オオクボさんが、ああいうふうに、副知事におっしゃったときに、上田議員さんもおられましたけれども、ものすごいインパクトがあって、国交省の方も知っていましたもんね。

佐賀新聞に大きく載りましたからね。

それを多分入手されたと思いますが。

草の芽運動というのが、やっぱりきくんだなと思いましたので。

これは、官民、つまんない意識はべつとして、一体となって起こしていく。

自民党が政権をにぎっているときに、見直しを、政治の意志として、やっていただくことが、大事だと思いますし、もし自民党がそれをやらなかったら、違う政党を応援します。

議長／3番 上田議員

上田議員／県内から、意見書が出たところ…まあ、いいや。

神崎だったり、鳥栖だったりとかいう話をしましたが、本議会、12月議会もですね、よその議会でも、今出ていないところでは、そういう動きがちらほら聞こえてきますので、そこらへんも一緒になって頑張っていただきたいと思います。

続きまして、最後の福祉についてですけれども。

今回ですね、予防摂取の公費助成について、質問をさせていただきます。

これですね、成人向けの、肺炎球菌の予防接種…これですね、私に来た1通のメールからなんですけど。

1回摂取すれば、効果は5年と言われていると。

接種費用に約8000円もかかって、年金受給者には、きつかもんねということでありました。

県内ほかの自治体では、助成制度がありますが、今武雄市にはないと。

なんとかならんやろかという話です。

今回ですね、この予防接種の公費助成について、このメールをもとに、私なりにいろいろ勉強しました。

いっちょんわからんごたばっか、難しいことばかりありましたが。

今現在、武雄市ではこのような予防接種の助成がされております。

ポリオとか、いろいろあります。

こっちのピンク色になっているのが、法定の部分です。

こっちのが、任意接種の助成の部分です、黄色ね。

今回、肺炎球菌についてのところでありますけれども、肺炎球菌についての予防接種も、いろいろ私も勉強しましたが、やっぱり難しかですもんね。

わかることだけ、抜粋してきたとですけど。

日本の死因の第三位が肺炎であるというところが、これを見ればわかるのかなと。

成人における市中肺炎の起因微生物頻度というのが、肺炎球菌が多いと。

これが、全国的にもいろいろ今実施されている自治体が、助成を実施しているのが、45%…どこやったかな。

これは摂取率で、実際の助成が、45%ですね。

ああ、ここに書いてある。

全国で、45%の自治体で、高齢者に対する、肺炎球菌ワクチンが、こういう助成が実施されていると。

摂取率は、17.5%で、未だ低いというところ。

私の頭でも、理解できるかできないかでした。

私も、いろいろお声をかけていただきましたので、調べました。

県内では、現在、嬉野市、小城市、唐津市、多久市などがあります。

助成の仕方が、どこでんばらばらですね、表が…。

嬉野 70 歳以上に対して、4000 円助成。

小城市は、65 歳以上に 3000 円。

こっちは、75 歳以上の人に 3500 円。

多久は、65 歳以上に 2000 円とかね。

有田町、太良町などが、実施されています。

見よったら、市によっては、小児のインフルエンザワクチン、黄色のほうですね。

法定じゃない部分。

任意接種のほうの助成制度で、ここらへんは実施をされていますが、武雄市にとっては、この小児のインフルエンザのワクチンの助成をしているというところで、だいたい、しらんところが、こっちばしよったりとかいう感じです。

神崎とか、どっちもなんもしとらんですが。

私も調べておりません。

ということで、これで、だぶるのが、嬉野市だけです。

実施されていると。

どっちはとつとるような感じにならんかなと、考えますが。

町のほうを見ると、有田、大町など。

そういう中で、公費助成…すみません、先にいきますけど。

インフルエンザワクチンと肺炎球菌の、併用効果というところが、ありました。

これは、公益社団法人日本糖尿病協会の、月刊糖尿病ライブによるものなんですが、65 歳以上の高齢者 778 人で研究されましたが。

肺炎の減少効果は認めるものの、統計学的に優位差はないと。

でも、75 歳以上の高齢者、慢性肺疾患、歩行困難症例等についてはですね、肺炎の発生が減少したという実績が出ているそうです。

厚生労働省のワクチン問題研究結果からいけば、日本全国の 65 歳以上の皆さんにワクチンを接種した場合、174 億円かかる。

しかし、それによる肺炎等の医療費の削減効果はおおよそ 5000 億というふうに記事が出ています。

肺炎球菌の予防接種の助成を武雄市でも、ぜひ求める声があります。

全国で先駆けてやったのが、ムラカミ先生らしかですね、話によると。

そこら辺をぜひ、考えていただいて実施してもらえればと思いますが、いかがでしょうか。
答弁をお願いします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／まずですね、65 歳以上はないと思うんですね。

先ほど出たように、優位の差がないということでポイントは 75 歳以上。

少なくとも 75 歳の方の死亡の一番の原因が肺炎で、しかも先ほど御説明あったように、そこにまた医療費がかかって国民負担になるということです。

今ムラカミトモヒロ先生もおっしゃいましたし、黒岩議員も吉川議員もいいましたが、いかに肺炎にならないようにするかというのが大きなポイントだと考えたときに、私は肺炎球菌のワクチンは非常に大切だと思っています。

その中で、8000 円するんですね、先ほど御説明あったように。

ですので、今考えようと思っているのは、生活保護世帯の方は全額補助したい。

それと、課税対象の方々については、これについては、負担をしてもらって、半額なのかなというように思っていますので、その線に沿って制度設計をしていきたい。

ただし 1 点、他にもいろんなワクチンがあります。

これをやるということになると、他ができなくなる可能性がある。

ですので、これはもう少しわれわれに時間をください。

時間をいただいた上で、医師会…今は医師会とものすごく仲がいいですので…とか、うちのくらし部を中心に一回勉強をさせてもらって、報告は次の議会で検討についてご報告できればいいなと思います。

ちょっとこれは、肺炎球菌ワクチンだけじゃない話もありますので。

それは優先順位をつけて。

本当は優先順位をつけたらいけないと思うが、議論の時間を与えてもらえればと。

貴重な話をしていただいたのはありがたいと思います。

議長／3 番 上田議員

上田議員／この肺炎球菌はですね、やっぱり、全国的にも 17.5 パーセントの摂取率ということで、県内の全部の実施しているところの摂取率を調べました。

今回ですね、グラフとしては出しませんが、そこらへんの情報も担当部のほうに渡します。

以上で私の質問を終わります。

議長／以上で、3 番 上田議員の質問を終了させていただきます。